

令和6年第3回山田町議会定例会

所 信 表 明

山 田 町 長 佐 藤 信 逸

所 信 表 明

本日、令和6年第3回山田町議会定例会の開会にあたり、町長再任のあいさつと今後4年間の町政運営に臨む私の所信の一端を申し上げ、町民並びに議員の皆様にご理解とご協力を賜りたいと存じます。

—はじめに—

去る6月30日に執行されました山田町長選挙において、町民の皆様からのご支援とご信任を賜り、引き続き、町政の舵取りを担わせていただくこととなりました。

誠に光栄であるとともに、人口減少や少子高齢化、物価高騰など生活全般に大きな影響が生じている状況の中、町の発展をかけた今後の4年間に果たすべき使命と職責の重さを痛感しており、改めて身の引き締まる思いであります。

平成24年7月に町長に就任させていただいてからの3期12年、未曾有の大震災や豪雨災害からの復旧・復興など、多くの難題と対峙し、町長としての使命と責任を果たすため、強い思いを持って町政運営に邁進してまいりました。

特にも後半においては、復興計画に位置付けられた「発展期」であり、復興のその先にある次なるステージを見据え、道の駅やまだ「おいすた」や山田小学校新校舎の建設など、果敢に挑戦してまいりました。

4期目を迎えるにあたりまして、これまでの信念はいささかも変わることなく、「誠実・実行」を基本姿勢とし、町民の皆様の声に耳を傾け、寄り添いながら、一つひとつの政策を実行し、より一層、町が発展するよう、誠心誠意取り組んでまいり所存であります。

さて、私は今回出馬するにあたって、「まちづくり6つのメッセージ」を掲げさせていただきました。

- 産業の振興と雇用の創出
- 観光の振興と交流人口の拡大
- 快適な生活環境の整備
- 子ども・子育ての充実・支援
- 教育・高齢者福祉の充実
- 将来を見据えた行財政改革

これらを柱とし、今後4年間において進めるまちづくりについて、述べさせていただきます。

○産業の振興と雇用の創出

恵まれた漁場を有する本町は、水産業が基幹産業であります。

しかしながら近年、気候変動や海洋環境の変化が原因と見られる主要魚種の不漁など、取り巻く環境は非常に厳しいものとなっております。

本町における水産業の振興施策を推進するため、水産に特化した部署を設置し、気候変動の影響に適応した新たな養殖手法等の研究・検討を進め、魅力的で力強い水産業を目指してまいります。

町の特産であるカキについては、カキまつり等のイベントや、愛称の由来となっている道の駅やまだ「おいすた」において、積極的に「カキのまち山田」をPRするほか、戦略的なプロモーションを展開し、知名度の向上を図る取組を進めてまいります。

また、「岩手三陸やまだオランダ島サーモン」の生産性の向上や販路拡大、地域ブランドとしての確立などの取組に対する支援を行ってまいります。

先端技術を活用したスマート技術は、作業の省力化・効率化など、人口減少や後継者不足対策として注目されております。

持続可能な産業の振興を図るため、スマート技術の導入など産業のDX（デジタル・トランスフォーメーション）化を後押しする取組を進めてまいります。

三陸沿岸道路山田北 I C のフル化により、周辺地域への新たな企業進出や既存企業の事業拡張が期待されます。

山田地区の低地部においても、移転元地を活用し、介護・医療施設向けの食事提供サービスを行う誘致企業の工場新設が進められており、町との「工場立地協定」を7月23日に締結したところであります。

企業誘致による雇用の創出及び地域経済の活性化は、本町の重点課題のひとつと捉えており、昨年度から実施している意向調査によるニーズ把握に努めながら、企業に対する働きかけなど、積極的にトップセールスを行ってまいります。

○観光の振興と交流人口の拡大

道の駅やまだ「おいすた」は、開業から1年余りが経過し、入込客数は80万人を超え、地元経済への波及効果も表れております。

季節ごとに楽しめる体験型イベントの開催や、町内商業施設との連携・協力を図りながら、引き続き町の玄関口として、町内への人の流れを加速する取組を進めてまいります。

産直ひろば「ふれあいパーク山田」も、リニューアル工事と道の駅再登録に向けた協議を進めており、両施設を拠点として、さらなる交流人口の創出を図る「山田町まるごと道の駅構想」の実現に向け取り組んでまいります。

船越半島の振興については、魅力ある観光資源を活かした体験型観光プログラムの提供や、イギリス・タイムズ紙が「日本で訪れるべき場所14選」と紹介したみちのく潮風トレイルの利用促進を図るとともに、外国人観光客の受入れ環境の整備を進め、さらなる観光誘客に取り組んでまいります。

船越家族旅行村及び船越公園は、交流の拠点となります。

現在休止しているオートキャンプ場を早期に再開させるほか、鯨と海の科学館における新たなコンテンツの開発による事業展開や、フィールド一帯を多くの方が楽しめる場所の整備を進めてまいります。

また、観光振興を推進する部署を設置し、多様化する観光ニーズへの対応や魅力発信などを推し進める体制を強化し、交流人口の拡大に向けた取組を進めてまいります。

○快適な生活環境の整備

本町を訪れる方々を気持ちよくお迎えするとともに、ごみのない美しいまちで快適に生活することは、多くの町民の願いであります。

新たに環境美化を推進する条例を制定し、町民や関係団体と協働しながら、意識の醸成を図り、観光と水産のまちにふさわしい、ポイ捨てのない清潔できれいなまちづくりを進めてまいります。

令和4年3月には、三陸沿岸道路山田北ICフル化の事業化が決定となり、地元有志団体により「山田北」の植栽文字が整備されるなど、早期完成への機運醸成の取組が進められております。

現在、改良工事の着手に当たり、起工式に向けた準備が進められているところでありますが、多くの町民のご要望にお応えすべく、関係機関と緊密に連携を図りながら、1日も早く供用開始を迎えることができるよう、引き続き取り組んでまいります。

令和4年度からの3か年事業として実施してきた「住宅建築促進事業」は、自宅のリフォーム工事のほか、猛暑に備えたエアコンの設置など、多くの方にご利用いただいております。

本事業については、7年度以降も継続するとともに、補助制度の拡充を図ってまいります。

○子ども・子育ての充実・支援

これまで取り組んできた学校給食費無償化、保育料無償化・副食費助成、18歳以下の子どもの医療費無償化などの子育て世帯への経済的負担の軽減策は、「将来を担う子どもたちを大切にする」というメッセージを込めた施策であります。

今後も子育て世代を応援する施策を展開していくとともに、国や県に対する財政支援や取組の強化について求めてまいります。

また、安心して子どもを産み、子育てができるよう、妊娠期から子育て期にわたる各ライフステージにおいて、切れ目のないきめ細やかな支援を行い、母子の健康保持や育児に対する不安解消などの取組を引き続き進めてまいります。

○教育・高齢者福祉の充実

本年4月に船越小学校が山田小学校に統合し、小学校2校、中学校1校の新たな体制となり、また、山田小学校は間もなく新校舎での移転開校を迎えます。

小学校間の連携や小中学校間の接続した取組など、新たな教育活動を展開し、児童生徒一人ひとりが日々楽しく学校生活を送りながら、生きる力を身につけ、自らの可能性を最大限に伸ばしていくため、教育環境の充実を図ってまいります。

閉校した船越小学校については、県内外の大学及び教育関係機関との連携・協力の下、町の新たな教育支援施設として利活用する方向で検討を進めてまいります。

また、町教育委員会が所管する教育研究所や教育相談室などの移転集約も視野に、不登校や引きこもりなど、様々な事情を抱える子どもたちが安心して学習できる環境づくりに努めてまいります。

山田八幡宮と大杉神社の神幸行事が、4月に「岩手県無形民俗文化財」に指定されたことは大変喜ばしいことであり、本町

には、豊かな風土の中で培われてきた誇れる歴史や文化、伝統があることを再認識したところであります。

山田中学校では、生徒会の発案により、全校生徒で山田秋祭りを盛り上げようとする試みも行われております。

今後においても、町民がこのまちに誇りと愛着を持ち続けるよう、郷土愛を育む取組を進めてまいります。

超高齢社会の今、要支援・要介護者が増加する一方、介護人材の確保が課題となっており、地域が一体となった生活支援体制を構築する必要があります。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスを包括的に提供する地域包括ケアシステムの構築を推進し、生きがいつくりに対する支援や、一人暮らしの高齢者をサポートする取組などを進めてまいります。

また、訪問型支援による相談体制や、複雑化する生活課題に対応するため、重層的支援体制の整備に関する検討を進め、すべての町民が安心して暮らせる地域共生社会を目指してまいります。

○将来を見据えた行財政改革

行政サービスに対する町民ニーズは多様化・複雑化しており、限られた職員体制の中、効率的で質の高い行財政運営が求められております。

行政文書の電子化に対応する「文書管理・電子決裁システム」を導入するほか、デジタル技術の導入の検討を行い、行政事務の効率化や、利便性の向上など町民のニーズに対応する取組を進めるとともに、既存の事務事業の見直しを行い、将来を見据えた行財政改革に取り組んでまいります。

また、人口減少や少子高齢化の進行を踏まえ、効率的かつ効果的な組織体制づくりが必要であります。

本町の基幹産業である水産業や観光振興に関する施策を推進するための部署を設置するなど、新たな課題に対応した行政組織機構の改編を進めてまいります。

町の財政状況については、財政健全化判断比率などの指標を見ても良好な状態にあると認識しております。

しかしながら、今後の人口減少による税収減などの影響を見据え、政策の推進・実現と堅実で安定的な財政運営の双方を重点課題と捉え、持続可能な行財政基盤の確立に向けた取組をより一層進めてまいります。

本年1月1日に発生した能登半島地震をはじめ、東日本大震災以後も各地で大きな災害が発生しており、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による災害も危惧されております。

災害対策及び行政サービスの拠点となる役場庁舎については、その在り方などに関する議論を本格化させるため、専門的知見を持つ有識者や町内各種団体の代表者などで構成する懇話会を設置し、そこでの意見や提言を踏まえながら、今後の方針を決定してまいります。

—おわりに—

以上、4期目にあたっての決意と町政運営に関する私の所信の一端を申し述べさせていただきました。

山田町長として3期12年、数々の心温まる励ましやご協力を賜り、多くの方々から支えられながら、町政運営を担ってまいりました。改めて深く感謝申し上げます。

先人から受け継いできた、この「ふるさと山田」を、希望とともに次の世代へ引き継ぐことが、私に課せられた使命であります。

新たに迎える4年間を「真の発展期」と位置付け、これまでの復興の足取りを振り返りながら、より安全安心を実感できるまちづくりを進めるとともに、将来を見据え、先送りできない課題に対し、緊張感を持って挑戦していく所存であります。

町民並びに議員の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。